

2010年	世界総会の年次理事会で、過去の罪を告白し悔い改める。
2011	世界総会総理来日合同礼拝。宣教のためのリバイバルと改革、777の祈りが始まる。
2012	大争闘プロジェクト。大いなる希望3分冊配布。
2013	大都市伝道始まる。収穫のための講演会TOKYO13。「牧師による証集『キリストにお会いしてから』」発行。
2014	教区ごとの大都市伝道。SAITAMA14、阪神14、NAHA14。
2015	全日本15。全国の82か所で収穫のための講演会。
2016	日本宣教120周年記念礼拝。日本伝道のための特別会議。世界総会総理来日特別礼拝。234の祈り開始。「全員参加伝道」を強調。
2017	希望する教会で収穫のための10日間の連続講演会実施。日本の牧師によるフィリピンの教会での連続講演会。
2018	全国100か所で収穫のための10日間の連続講演会。
2020	教会員2万人、礼拝出席者2万人。

# 全日本18マラナ・タ プロジェクト

全日本18マラナ・タとは、2018年5月に、日本全国の100か所で、収穫のための10日間の連続講演会を行うという計画です。100か所というのは最低の目標です。教団、教区、牧師を通して全国の教会、集会所、聖書研究会に対して、この計画への参加を呼びかけていこうとしています。世界総会総理のテッド・ウィルソン先生も2018年には5月3日から20日まで来日し、講師の1人としてご奉仕して下さるようになっていきます。

## 全日本18マラナ・タの目的

今年1月に行われた教団総会で採択された教団のモットーは「起きよ、光を放て。主は来たりたもう！」です。2000年前に十字架で死に、3日目に復活し、天に昇って行かれたイエス様が、間もなくこの世界にもどって来られると私たちは信じています。

イエス様から愛されていることを知り、そのイエス様を救い主として信じた私たちにとって、イエス様が来られる時は最高の喜びの時となります。しかし、イエス様を

信じない人にとっては、その時が、その人の人生が永遠に終わる時となってしまいます。

現在日本に住んでいる多くの人と一緒に、喜んでイエス様の来られる時を迎えるために準備することが、この計画の目的です。

2016年8月2日に開かれた教団伝道委員会で、2018年に日本のセブンスデー・アドベンチスト教団をあげて取り組もうとしている伝道計画を、「全日本18マラナ・タ」と呼ぶことが決まりました。

人々を好きになることと、その人たちの救いのために祈ることに、教会の皆さんが1人でも多く参加して下さるならば、全日本18マラナ・タは必ず神様から祝福されると信じています。

この「全日本18マラナ・タ」は、誰かの思い付きで突然に出てきたものではありません。左の表にあるように、一連の流れの中で出てきたものです。始まりは、世界総会が2010年に発表した、セブンスデー・アドベンチスト教会全体としての罪の告白と悔い改めです。

「私たちは後の雨における聖霊の注ぎを祈りと御言葉を通して神に求めることを常に最優先してこなかったことを認めます。私たちは個人的生活において、諸会議において、あまりにもしばしば己の力によって働いてきたことを謙虚に告白します。あまりにもしばしば、失われた

世界を救おうとする神の働きを第一にできませんでした。時には、神を知るといっても大切なことをその仕事の中で無視してきました。あまりにもしばしば、ささいなことで嫉妬し、野望を抱き、個人的関係を壊し、長い間リバイバルや改革を押しやり、天来の力よりも人間の力で働こうとしました」(『アドベンチストライフ』2011年1月号より)

これを受けて、日本でも777の祈りが始まりました。そして、礼拝出席者の4割を超える人たちが毎日、聖霊の豊かな注ぎを求めて祈り続けてきました。そのような流れの中で、TOKYO13が行われ、それが2014年には教区ごとの都市伝道へと広がり、さらに昨年は全日本15へと広がっていきました。全日本15では82か所で、収穫のための講演会が行われましたが、全日本18マラナ・タでは講演会の場所を

全日本18マラナ・タの準備としてぜひ皆さんに協力していただきたいこと

まずは、いろんな人を好きになることです。自分に良いことをしてくれる人だけでなく、嫌なことをする人のことも好きになりましょう。家族や親せき、近所の人、通勤中に会う人、スーパーのレジの人、会社や学校の人、配達員、誰でもかまいません。イエス様が来られたら、一緒に天に行きたいと思うようになりましょう。嫌いな人とは一緒に天に行きたくありませんよね。ですから、まず周りの人々を好きになりましょう。今年のアドベンチストライフ7月号の特集記事「つながりを持つための100の提案」をもう一度読んで、周りの人を好きになる方法を考えてみてください。

次に、その人たちと一緒にイエス様の再臨を喜んで迎えられるように祈る事です。

234の祈りをお勧めします。毎週安息日学校の時間か礼拝の前か後に時間を作って、自分たちの祈りの輪に礼拝出席する求道者がもう1人与えられるように、まずは2人で祈りましょう。2人で祈るときに、イエス様もそこにいてください。そして、3人目が与えられたときに、その3人目の人をどのように祈りの輪に迎えればいいのかを教えてください。

安息日以外の日にも、2人で励まし合って祈る工夫をしてみましょう。メールを使ったり、電話と一緒に祈るのいいかもしれません。また、個人で続けている777の祈りの中にも、執り成しの祈りを加えましょう。

100か所以上に広げようとしています。支部も世界総会もたくさん協力してください。さらに教団の指導者たちは、全日本18マラナ・タの向こう側に、2020年までに信徒数2万人、礼拝出席者2万人という幻を見ています。どうしてこんな大きな幻を見ているのでしょうか。それは、イエス様が日本のすべての人々を愛していることを知ってしまったからです。イエス様の思いに比べれば、教団の指導者たちの幻は小さなものかもしれません。しかしこの小さな幻を見るためにも、大きな信仰と勇氣が必要でした。なぜなら自分たちの力では絶対にできないと感じているからです。確かにそのとおりで、私たちに1人1人さえも救える力はありません。だからこそ、聖霊の神様の働きに100%期待して、不可能と思える幻を見ようと思えました。

人を救うのは神様の働きです。だから祈ることなくしてこの幻を見ることはできません。目を覚まして祈っていなければ、聖霊の神様が働いて導いて来た人を、出会わせて下さった人を見逃してしまつかもしれないからです。

私たちにできることは、神様の御心が行われるように祈ることです。降り注いでいる聖霊の働きの結果として神様の救いを求めて来る人を見逃さず受け入れることです。神様が出会わせてくださった人を見逃すことがないよう求めることです。そして、そのようにして来た人や出会った人に、救い主イエス様を紹介できるようにいつも準備していることです。

全日本18マラナ・タが日本における神の救いの御業の大きな現れとなりますように。

(山地宏、教団伝道局長)